

第4問

次の「問題文Ⅰ」の詩と「問題文Ⅱ」の文章は、いずれも馬車を操縦する「御術」(ぎよじゆつ)について書かれたものである。これらを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。(配点 50)

【問題文Ⅰ】

吾 <sub>ニ</sub> 有 <sub>リ</sub> 千里 <sub>ノ</sub> 馬 <sub>一</sub>	毛 <sub>(注1)</sub> 骨 <sub>(1)</sub> 何 <sub>ニ</sub> 蕭 <sub>(注2)</sub> 森 <sub>一</sub>
疾 <sub>(はや)</sub> 馳 <sub>(は)</sub> 如 <sub>ク</sub> 奔 <sub>ル</sub> 風 <sub>一</sub>	白 <sub>ニ</sub> 日 <sub>一</sub> 無 <sub>シ</sub> 留 <sub>ル</sub> 陰 <sub>ヲ</sub>
徐 <sub>(おもむ)</sub> 驅 <sub>(か)</sub> 當 <sub>リ</sub> 大 <sub>ニ</sub> 道 <sub>一</sub>	步 <sub>(注3)</sub> 驟 <sub>(しう)</sub> 中 <sub>(注4)</sub> 五 <sub>ニ</sub> 音 <sub>一</sub>
馬 <sub>ニ</sub> 雖 <sub>(も)</sub> 有 <sub>リ</sub> 四 <sub>ノ</sub> 足 <sub>一</sub>	遲 <sub>ハ</sub> 速 <sub>ハ</sub> 在 <sub>リ</sub> 吾 <sub>ガ</sub> <b>X</b>
六 <sub>(注5)</sub> 轡 <sub>(ひ)</sub> 応 <sub>(じ)</sub> 吾 <sub>ガ</sub> 手 <sub>ニ</sub>	調 <sub>(スル)</sub> 和 <sub>(コト)</sub> 如 <sub>シ</sub> 瑟 <sub>(注6)</sub> 琴 <sub>一</sub>
東 <sub>ト</sub> 西 <sub>ト</sub> 与 <sub>ニ</sub> 南 <sub>北</sub>	高 <sub>コ</sub> 下 <sub>ス</sub> 山 <sub>ト</sub> 与 <sub>レ</sub> 林 <sub>一</sub>
惟 <sub>(注7)</sub> 意 <sub>(シ)</sub> 所 <sub>(ニ)</sub> 欲 <sub>(シ)</sub> 適 <sub>(ス)</sub>	九 <sub>(注7)</sub> 州 <sub>(シ)</sub> 可 <sub>(シ)</sub> 周 <sub>(シ)</sub> 尋 <sub>(ス)</sub>
至 <sub>(注8)</sub> 哉 <sub>(ナ)</sub> 人 <sub>ト</sub> 与 <sub>レ</sub> 馬 <sub>一</sub>	両 <sub>(ニ)</sub> 樂 <sub>(サ)</sub> 不 <sub>(サ)</sub> 相 <sub>(サ)</sub> 侵 <sub>(サ)</sub>

(注)

- 1 毛骨——馬の毛なみと骨格。
- 2 蕭森——ひきしまつて美しい。
- 3 步驟——馬が駆ける音。
- 4 五音——中国の伝統的な音階。
- 5 六轡——馬車を操る手綱。
- 6 瑟琴——大きな琴と小さな琴。



馬車を走らせる御者

伯樂(注8)識シル其ノ外ヲ徒(ア)知ル其ノ價ナ千金ナルヲ

7 九州——中国全土。

8 伯樂——良馬を見抜く名人。

王良ハ得タリ其ノ性ヲ此ノ術(イ)固ク己ニ深シ

9 善馭——すぐれた御者(前ページの図を参照)。  
馭は御に同じ。

良馬ハ須マツ善(注9)馭ギョ吾ガ言ハ可シ為ス箴(注10)

10 箴——いましめ。

(歐陽脩『歐陽文忠公集』による)

【問題文Ⅱ】

王良は趙国(ちやうこく)の襄主(じやうしゆ)に仕える臣であり、「御術」における師でもある。ある日、襄主が王良に馬車の駆け競べを挑み、三回競走して三回とも勝てなかった。くやしがる襄主が、まだ「御術」のすべてを教えていないのではないかと詰め寄ると、王良は次のように答えた。

凡ソ御ノ所ハ貴ブ馬(a)体ニ安シ于ニ車ニ人(b)心ニ調カ于ニ馬ニ而シ後ニ可シ以テ進ム速(c)

致ス遠(c)今ニ君ノ後ニ則チ欲ス速ク臣ニ先ニ則チ恐ス速ク于ニ臣ニ夫レ誘メ道ニ争フ遠ク非ズ先ニ

則チ後ニ也ニ而シ先ニ後ニ心ハ在リ于ニ臣ニ尚ホ何ヲ以テ調ハ于ニ馬ニ此レ君ノ所ニ以テ後ニ

也。

(『韓非子』による)

問1 波線部(ア)「徒」・(イ)「固」のここでの意味と、最も近い意味を持つ漢字はどれか。次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ・  。

(イ)

31	固				
⑤	④	③	②	①	
本	絶	必	難	強	

(ア)

30	徒				
⑤	④	③	②	①	
猶	好	当	復	只	

問2 波線部①「何」・②「周」・③「至哉」のここでの解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

32  
く  
34。

- (1) 「何」
- |     |      |       |      |     |
|-----|------|-------|------|-----|
| ⑤   | ④    | ③     | ②    | ①   |
| なんと | どうして | どのように | いつから | どこが |

- (2) 「周」
- |         |          |          |         |         |
|---------|----------|----------|---------|---------|
| ⑤       | ④        | ③        | ②       | ①       |
| はるか遠くより | きちんと準備して | あらゆるところに | 何度も繰り返し | 手あたり次第に |

- (3) 「至哉」
- |                     |                      |                        |                       |                        |
|---------------------|----------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|
| ⑤                   | ④                    | ③                      | ②                     | ①                      |
| こんなにも速く走ることができるだろうか | このような境地にまで到達できるものなのか | あのような高い山まで登ることができるだろうか | こんなにも人の気持ちが理解できるものなのか | あのような遠くまで行くことができるものなのか |

問3

【問題文Ⅰ】の傍線部A「馬雖有<sub>レ</sub>四足<sub>一</sub>遅速在<sub>レ</sub>吾<sub>一</sub>」には「御術」の要点を述べている。【問題文Ⅰ」と【問題文Ⅱ】を踏まえれば、【問題文Ⅰ】の空欄Xには【問題文Ⅱ】の二重傍線部(a)と(e)のいずれかが入る。空欄Xに入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は35。

- ⑤ ④ ③ ② ①  
(e) (d) (c) (b) (a)  
臣 先 進 心 体

問4 傍線部B「惟意所欲適」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

- |   |       |                 |
|---|-------|-----------------|
| ① | 惟意所欲適 | 惟だ意の欲して適ふ所にして   |
| ② | 惟意所欲適 | 惟だ意ふ所に適はんと欲して   |
| ③ | 惟意所欲適 | 惟だ欲する所を意ひ適きて    |
| ④ | 惟意所欲適 | 惟だ意の適かんと欲する所にして |
| ⑤ | 惟意所欲適 | 惟だ欲して適く所を意ひて    |

問5 傍線部C「今君後則欲速<sub>レ</sub>臣、先則恐<sub>レ</sub>速<sub>二</sub>于<sub>一</sub>臣。」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ

選べ。解答番号は 37。

- ① あなたは私に後ろにつかれると馬車の操縦に集中するのに、私が前に出るとすぐにやる気を失ってしまいました。
- ② あなたは今回後れても追いつこうとしましたが、以前は私に及ばないのではないかと不安にかられるだけでした。
- ③ あなたはいつも馬車のことを後回しにして、どの馬も私の馬より劣っているのではないかと憂えるばかりでした。
- ④ あなたは後から追い抜くことを考えていましたが、私は最初から追いつかれないように気をつけていました。
- ⑤ あなたは私に後れると追いつくことだけを考え、前に出るといつ追いつかれるかと心配ばかりしていました。



問6 「問題文Ⅰ」と「問題文Ⅱ」を踏まえた「御術」と御者の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

38

- ① 「御術」においては、馬を手厚く養うだけでなく、よい馬車を選ぶことも大切である。王良のように車の手入れを入念にしなければ、馬を快適に走らせることのできる御者にはなれない。
- ② 「御術」においては、馬の心のうちをくみとり、馬車を遠くまで走らせることが大切である。王良のように馬の体調を考えながら鍛えなければ、千里の馬を育てる御者にはなれない。
- ③ 「御術」においては、すぐれた馬を選ぶだけでなく、馬と一体となつて走ること大切である。襄主のように他のことに気をとられていては、馬を自在に走らせる御者にはなれない。
- ④ 「御術」においては、馬を厳しく育て、巧みな駆け引きを会得することが大切である。王良のように常に勝負の場を意識しながら馬を育てなければ、競走に勝つことのできる御者にはなれない。
- ⑤ 「御術」においては、訓練場だけでなく、山と林を駆けまわつて手綱さばきを磨くことも大切である。襄主のように型通りの練習をおこなうだけでは、素晴らしい御者にはなれない。